

大学コンソーシアム富山 地域課題解決事業
平成25年度 地域課題提案書

自治体等名	舟橋村	提案部局	生活環境課
地域課題名	人口問題プロジェクト		
地域課題の背景	我が国では人口減少・少子高齢化の進展により、地域活力の衰退や維持困難への懸念などの地域課題が顕在化している。幸いなことに舟橋村は現在、住民の平均年齢が38歳台と非常に若い。しかし、年齢構成では、35歳から45歳の構成割合が3割を超えているものの18歳から34歳までの構成割合が非常に低いため、近い将来急激な高齢化を迎えることが予測される。		
事業の概要	<p>①人口減少, 少子高齢化による舟橋村の変化の姿を明らかにする</p> <ul style="list-style-type: none"> * 人口推移予測 * 予測にもとづく変化シナリオの検討 *シナリオに基づく課題抽出 <p>②国内各地の人口減少, 少子高齢化を踏まえた人口増加対策の基礎情報を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> * シナリオ別地域課題克服の地域政策に関する基礎情報・ナレッジ収集(例)事例収集など <p>③人口増対策としての戦略, 戦術案の立案</p>		
事業実施に当たっての協働体制	<p>【自治体等の役割】 人口問題プロジェクトチームの編成、将来人口予測データ作成、地域政策・先駆事例等の基礎情報収集コンサルの提供。</p> <p>【高等教育機関の役割】 情報収集力、事業実践力などの地域マネジメント能力の提供など地域課題解決に向けた専門的知識やスキルの提供。</p>		
成果の活用方法	人口問題政策反映		

地域課題名 人口問題プロジェクト

(市町村名) (舟橋村)

提案・指導教員 地域連携推進機構・教授 金岡省吾(地域づくり・文化支援部門)

1. 課題解決策の要約

舟橋村住民の平均年齢は 38 歳台と非常に若く、35～45 歳の構成割合は3割超であるが、18～34 歳までの構成割合が非常に低い。近い将来、急激な人口減少、少子高齢化を迎えることが予測され、地域活力の衰退や維持困難などの地域課題が潜在化しており、舟橋村の地域活性化を考えるためには、将来の人口推移を見据えた地域政策の展開は不可欠である。

そこで、上記の舟橋村の地域課題を解決するために以下のような事業を実施した。

- ① 人口推移予測(コーホート手法)により、人口減少、少子化、高齢化による舟橋の変化の姿を明らかにし、現状トレンド推移、封鎖人口、シナリオ・ライティングなど変化シナリオを検討する。
- ② 人口減少、少子高齢化による地域活力の衰退や維持困難など地域課題解決に資する国内各地の地域政策について、シナリオ別地域課題克服の事例収集を行う。
- ③ ①②を踏まえた人口増対策としての戦略、戦術案の立案を行った。

2. 調査研究(企画や実施を含む)の目的

舟橋村第 4 次総合計画では、「地域住民と行政による協働型まちづくり」を目標に据え、住民と行政が地域課題を共有するとともに、その克服に向けての共通目標を掲げ、それぞれの責任と役割においてまちづくりを実践することを目指している。この目標を達成するためには、行政職員も、変化する時代環境と村の状況を理解し、情報収集力、企画力、事業実践力などの地域マネジメント能力を身につけた上での地域づくり行政の展開が必須である。

しかし、舟橋村職員の現状は、少ない職員数、複数業務の掛け持ち、縦割りの弊害(周囲事業の感心の薄さ)、地域政策に関する基礎情報・基礎ナレッジの不足などの課題が存在し、職員間の連携力の強化、協働型まちづくり実践力の涵養が必要である。そこで、舟橋村職員が協働型まちづくり実践のための職員能力強化プログラムとして、人口問題プロジェクト解決を目指した政策立案に資する大学連携事業を展開する。

3. 調査研究(企画や実施を含む)の内容

舟橋村と富山大学の双方がともに汗をかき、協働型プロジェクトとして下記事業を展開した。

- ① 舟橋村職員による人口問題プロジェクトチームを編成し、職員研修形式にて当該事業を実施
 - ② シンクタンク活用により、将来人口予測データ作成、地域政策・先駆事例等の基礎情報を収集とともに、室蘭工業大学との連携による地域構造分析を実施したが、富山大学は将来人口予測、地域政策・先駆事例等の基礎情報収集、地域構造分析等に支援するとともに、富山大学、舟橋村は隔週程度の**緊密な打合わせ**を行いながら、**ともに汗をかき**事業を実施
 - ③ 大学連携事業はコスト削減のための安易な**民業圧迫**の可能性を秘めているが、これを**回避**し、協力機関との連携は丸投げでなく、収集データを村職員さらに加工、分析を加えている
- 事業実施に際しては、**事業企画立案打合せ 11 回、運営準備打合せ 16 回と計 27 回の打合せ**を

行っただうえで、政策立案事業実施回数 14 回と**合計 41 回のコミュニケーション**を重ね、舟橋村と富山大学の双方が汗をかくか形で事業を実施している。

プロジェクトの実施状況については **HP** にて**公開**している

<http://www.acc.u-toyama.ac.jp/2014funahashimura/index.html>

【人口問題プロジェクトの実施状況】

第 1 限目／オリエンテーション

とき:平成 25 年 7 月 30 日(火) 18:00~20:00

ところ:舟橋村役場 2 階会議室

出席者:舟橋村副村長 富山大学古池部門長

テーマ:情報は与えられるものではない！自ら探す



第 2 限目

とき:平成 25 年 8 月 20 日(火) 18:00~20:00

ところ:舟橋村役場 2 階会議室

テーマ:舟橋村の現状分析①

人口増の要因(開発経緯・システム)を解明
人口問題プロジェクトのパースペクティブ
≒検討の方向性を明らかにする！



第 3 限目

とき:平成 25 年 9 月 10 日(火) 18:00~20:00

ところ:舟橋村役場 2 階会議室

テーマ:舟橋村の現状分析②

人口動態の変化を解明
人口問題プロジェクトのパースペクティブ
≒検討の方向性を明らかにする！



第 4 限目

とき:平成 25 年 9 月 24 日(火) 18:00~20:00

ところ:舟橋村役場 2 階会議室

テーマ:舟橋村の現状分析③

人口問題プロジェクトのパースペクティブ
≒検討の方向性を明らかにする！
人口動態②人口動態の変化動向・推移を解明
財政状況①財政＝収入・支出の仕組みを知る



第 5 限目

とき:平成 25 年 10 月 22 日(火) 18:00~20:00

ところ:舟橋村役場 2 階会議室

テーマ:舟橋村の現状分析④

人口問題プロジェクトのパースペクティブ
人口動態③総括
地域構造①新たな論点,広域的な村のポジション



第 6 限目

とき:平成 25 年 10 月 29 日(火) 18:00~20:00

ところ:舟橋村役場 2 階会議室

テーマ:舟橋村の理想像を描く①



どのような村を目指し、
どのような政策^{ハード・ソフト}が必要？

第7限目

とき:平成 25 年 11 月 12 日(火) 18:00~20:00

ところ:舟橋村役場 2階会議室

テーマ:舟橋村の理想像を描く②

ベッドタウン舟橋のシナリオライティング

現状・課題→スイッチ=方向性→施策体系



第8限目

とき:平成 25 年 11 月 26 日(火) 18:00~20:00

ところ:舟橋村役場 2階会議室

テーマ:舟橋村の理想像を描く③

ベッドタウン舟橋の施策体系

～魅力と取り組み～



第9限目

とき:平成 25 年 12 月 3 日(火) 18:00~20:00

ところ:舟橋村役場 2階会議室

テーマ:具体的プロジェクトを検討①

ベッドタウン舟橋の施策体系

～魅力と取り組み～



第10限目

とき:平成 26 年 1 月 14 日(火) 18:00~20:00

ところ:舟橋村役場 2階会議室

テーマ:具体的プロジェクト②

舟橋村人口問題プロジェクト

情報収集結果発表



第11限目

とき:平成 26 年 1 月 30 日(火) 18:00~20:00

ところ:舟橋村役場 2階会議室

テーマ:具体的プロジェクトを検討③

中間発表



第12限目

とき:平成 26 年 2 月 13 日(火) 18:00~20:00

ところ:舟橋村役場 2階会議室

テーマ:プレゼン演習

中間発表②



第13限目

とき:平成 26 年 2 月 27 日(木) 18:00~20:05

ところ:舟橋会館 2階研修室

テーマ:村長への中間プレゼンテーション



第14 限目 最終回

とき:平成 26 年 4 月 8 日(火) 18:00~20:05

ところ:舟橋会館 2 階研修室

テーマ:村長への最終プレゼンテーション



4. 調査研究(企画や実施を含む)に基づく提言

分析から...
・これまでのような**人口流入が困難な状況**
・**負担増加により行政運営が困難**に

将来を見据えた
戦略的な対策が必要

目指す方向 「住んでよかった、住み続けたいベッドタウン」
目標 ・子育て世代への新たな魅力の創造、「子育てするなら舟橋村」
・協働体制の構築

必要な2つの取り組み

①新たな人口流入
ターゲット:若者世代・子育て世代
実施項目:宅地造成、空き家、アパートなど
基本方針:協働体制、ただ人口を増やすだけではなく、住んだ後のまちづくりを考慮

②住みやすい環境づくり
ターゲット:独身世代、子育て世代、エイジレス予備群、エイジレス世代 (エイジレス=生涯現役)
実施項目:
・魅力づくり→世代に応じた魅力
・機能づくり→世代に応じた必要機能
・協働づくり→世代に応じた役割や責任

施策の提案

①新たな人口流入
(1)官民連携による「協働型モデル地区」造成事業
(2)空き家・古民家の活用と地域コミュニティの再生
(3)大学生による地域活動参加支援
(4)シングルマザー限定シェアハウス

②住みやすい環境づくり
(1)小児科医療機関誘致
(2)保(幼)・小・中一貫「日常英会話習得」
(3)地域で創る子育て環境
・子育てカフェの開催
・子育て世代と異世代による子育て交流

【関連施策・事業】
■舟橋村環境総合整備計画
・地域の子供を地域で育てる地域コミュニティづくり事業
・舟橋会館への子育てサポートセンター機能の導入
・住宅団地親子の皇業体験事業 など
■舟橋村健康構想
・世代間交流の促進
・地域コミュニティの活動促進 など

5. 調査研究(企画や実施を含む)の成果および課題解決策の自己評価

人口問題プロジェクトは、変化する時代環境と村の状況を理解し、情報収集力、企画力、事業実践力等の地域マネジメント能力を身につけた地域づくり行政を展開できる人材養成を主たる目的に、「情報は与えられるモノではない。自ら探す」をスローガンに事業展開した。これまでの政策立案は隣接市町村からの情報収集、コピペ意識が潜在していたと推測できるが、本プロジェクトを通して

- ① 職員自らが情報収集できるようになったこと
- ② 広く全国の自治体の政策事例を見出し、さらにヒアリングを実施し、自村の政策反映・可否への検討材料としていること
- ③ 大学、首都圏シンクタンクとの連携意識が向上していること

など、他自治体と比較しても政策立案能力の向上が伺え、一定の成果があったと考える。また、少ない職員数、複数業務の掛け持ち、縦割りの弊害(周囲事業の感心の薄さ)を克服し、職員間の連携力も以前より向上したと考える。

事業評価報告書

1. 地域課題名
人口問題プロジェクト
2. 自治体名及び評価部局名
舟橋村副村長
3. 課題の概要
村平均年齢 38 歳代と非常に若く、35～45 歳の構成割合が 3 割を超えているが、18 歳～35 歳までの構成割合が非常に低いことから、将来的な人口減少、少子高齢化が予測される。これを踏まえ、これまでの取り組み、将来人口予測から村のあるべき姿を描き、実現に向けた政策提案を行う。
4. 解決策の提言に対する評価（観点及び分析等について具体的に記載ください。）
若手職員によるプロジェクトとして実施した。コーホート分析、クライスラー分析等の指導により、分析力が非常に向上した。また、先駆的な事例を紹介いただくことで、職員自身が情報を取り、舟橋村バージョンにリライト出来るまで成長した。これまでの村の取り組みを踏まえ、将来ビジョンを描き、実現に向けた政策提案は、想像以上の完成度であった。
村では、この施策の実現に向け、引き続き富山大学の支援をお願いしたい。